【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成27年2月5日(2015.2.5)

【公表番号】特表2014-511388(P2014-511388A)
【公表日】平成26年5月15日(2014.5.15)
【年通号数】公開・登録公報2014-025
【出願番号】特願2013-555900(P2013-555900)
【国際特許分類】
Ｃ０７Ｋ　 1/18　　 (2006.01)
Ｃ０７Ｋ　 1/36　　 (2006.01)
Ｃ０７Ｋ　14/47　　 (2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０７Ｋ　 1/18
Ｃ０７Ｋ　 1/36
Ｃ０７Ｋ　14/47

【手続補正書】
【提出日】平成26年12月11日(2014.12.11)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ａ）オステオポンチンを含んでなり、２５℃でｐＨ３．６～６．５の範囲のｐＨと、２５℃で４～１０ｍＳ／ｃｍの範囲の導電率とを有する、ミルク由来供給物であって、
－前記ミルク由来供給物のタンパク質総量に対して、少なくとも１％（ｗ／ｗ）の量のカゼイノマクロペプチド
をさらに含んでなる、ミルク由来供給物を提供するステップと、
ｂ）前記ミルク由来供給物をアニオン交換媒体に接触させることを含む、前記ミルク由来供給物にアニオン交換クロマトグラフィーを実施するステップと、
ｃ）任意選択的に、前記アニオン交換媒体を洗浄するステップと、
ｄ）前記アニオン交換媒体に結合するタンパク質を回収し、それによって単離オステオポンチンを含んでなる組成物を得るステップとを含んでなることを特徴とする、ミルク由来供給物からオステオポンチンを単離する方法。
【請求項２】
請求項１に記載の方法において、前記ミルク由来供給物が、前記ミルク由来供給物のタンパク質総量に対して、１～４０％（ｗ／ｗ）の範囲の量のＣＭＰを含んでなることを特徴とする方法。
【請求項３】
請求項１または２に記載の方法において、前記ミルク由来供給物が、少なくとも５％（ｗ／ｗ）の量のＣＭＰを含んでなることを特徴とする方法。
【請求項４】
請求項１～３のいずれか一項に記載の方法において、前記ミルク由来供給物が、５．０未満の等電点（ｐＩ）を有する追加的タンパク質をさらに含んでなることを特徴とする方法。
【請求項５】
請求項１～４のいずれか一項に記載の方法において、前記ミルク由来供給物が、乳清由

来供給物を含んでなることを特徴とする方法。
【請求項６】
　請求項１～５のいずれか一項に記載の方法において、前記ミルク由来供給物が、甘性乳清由来供給物を含んでなることを特徴とする方法。
【請求項７】
　請求項１～６のいずれか一項に記載の方法において、前記ミルク由来供給物が、５．０～６．５の範囲のｐＨを有することを特徴とする方法。
【請求項８】
　請求項１～６のいずれか一項に記載の方法において、前記ミルク由来供給物が、２５℃でｐＨ３．８～５．５の範囲のｐＨを有することを特徴とする方法。
【請求項９】
　請求項１～８のいずれか一項に記載の方法において、前記ミルク由来供給物を提供するステップａ）が、前記ミルク由来供給物を形成するために酸性化された液体から、沈殿を除去することを伴うことを特徴とする方法。
【請求項１０】
　請求項１～９のいずれか一項に記載の方法において、前記ミルク由来供給物が、前記ミルク由来供給物のタンパク質総量に対して、少なくとも１％（ｗ／ｗ）の量のα－ラクトアルブミンを含んでなることを特徴とする方法。
【請求項１１】
　請求項１～１０のいずれか一項に記載の方法において、前記ミルク由来供給物が、前記ミルク由来供給物のタンパク質総量に対して、少なくとも１％（ｗ／ｗ）の量のβ－ラクトグロブリンを含んでなることを特徴とする方法。
【請求項１２】
　請求項１～１１のいずれか一項に記載の方法において、前記ミルク由来供給物が、６～２５０ｇ／Ｌミルク由来供給物の範囲のタンパク質総量を含んでなることを特徴とする方法。
【請求項１３】
　請求項１～１２のいずれか一項に記載の方法において、前記ミルク由来供給物が、２５℃で導電率４．５～９．０ｍＳ／ｃｍの範囲の導電率を有することを特徴とする方法。
【請求項１４】
　請求項１～１２のいずれか一項に記載の方法において、前記ミルク由来供給物が、２５℃で導電率４～７ｍＳ／ｃｍの範囲の導電率を有することを特徴とする方法。
【請求項１５】
　請求項１～１２のいずれか一項に記載の方法において、前記ミルク由来供給物が、２５℃で導電率７～１０ｍＳ／ｃｍの範囲の導電率を有することを特徴とする方法。
【請求項１６】
　請求項１～１５のいずれか一項に記載の方法において、回収された前記組成物が、濃縮、透析濾過、溶媒蒸発、噴霧乾燥、およびタンパク質結合カチオン置換からなる群から選択される、１つまたは複数の工程ステップをさらに受けることを特徴とする方法。